

第3節 観光の振興を図る

現状と課題

近年、ライフスタイルの多様化や自由時間の増大などを背景に、観光に対するニーズは、従来の名所・旧跡めぐりに加えて、地域の自然や歴史、文化とふれあえるような観光へと変化してきています。また、「観光立国」を推進する国の動きも活発化しているなか、「観光」は、農業や商工業など既存産業との連携により、地域のさらなる産業の発展や活性化なども期待される分野となっています。

本市は、豊かな自然環境に恵まれ、古墳・遺跡や由緒ある社寺仏閣などが数多く存在しており、緑と歴史の散歩道や山背古道など、これらの資源をつないだルートを設定しています。また、青谷梅林や花しょうぶなどの誇れる資源もあり、開花期にはイベントを開催し、市民や観光客に楽しまれています。

また、平成14年に市民参加型の城陽市観光協会が設立され、光のページェントをはじめとする新たな観光行事の展開や観光案内ボランティアの養成なども実施し、観光客の受入体制も充実してきています。

しかしながら、地域資源をさらに観光資源として活かすための施策の展開や、受入体制のさらなる充実が求められており、観光協会との連携を図るなかでその取り組みを進めていく必要があります。また、近隣市町など広域的な連携を図るなかで効率的・効果的に施策を展開していくことが必要です。

基本方針

自然資源、遺跡や社寺などの歴史的資源、特産物などの市固有の地域資源を活かしながら、周辺市町との広域的な連携による観光ルートの確立をめざします。

観光客の受入環境の整備などにより、市民が気軽に余暇を楽しむことができ、かつ季節を問わずいつでも多くの観光客が訪れるまちをめざします。

観光関連施策との連携により、地域や商業・農業の活性化をめざします。

まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の	10年後の	めざすべき
				目標	目標	
観光入込み客数	年間観光入込み客数	人	635,421	837,000	1,034,000	

主な施策の展開

(1) 観光資源の整備

「古墳のまち」、「スポーツのまち」、「梅のまち」など地域外に広くアピールできる個性ある城陽市の確立をめざします。また、周辺市町との広域的な連携による観光施策を進めつつ、

地域としての魅力を高めるため、埋もれた資源を発掘するとともに、青谷梅林、花の小径(花しょうぶなど)、観光いも掘り農園などの既存観光資源の保全や新しい観光開発に向けた検討を行います。

(2) 受入環境の整備

各種観光資源を有機的に結ぶため、案内標識の再確認、宿泊施設、駐車場などの受入環境の整備を進めます。また、観光客へのサービス向上を図るため、城陽市観光協会の観光ボランティア事業などを支援します。

(3) 観光行事の拡充

市民や来訪者が余暇を楽しめるよう、城陽市観光協会における催し物の情報提供や観光行事の充実を支援します。

また、より広域的な観光事業の展開に向けて、近隣市町との連携により山背古道のルート拡大など広域的な観光施策を展開していきます。

市民まちづくりワークショップからの提言

市民の役割(例示)

歴史や文化、伝統を大切にし、積極的にイベントや交流活動に参加する。

農業団体や商工業団体は地域資源を活用し、観光振興につながるよう、関係者間の協力体制を築く。

城陽市観光協会を中心として、観光に関する人材育成、人材確保を推進する。

城陽の歴史文化などに詳しい市民などは、市民観光ボランティアガイドとして活躍する。